



中央区東支部事情

札幌市医師会中央区東支部
川西内科胃腸科病院 院長

川 西 讓 児

このたびの東日本大震災におきまして亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、いまだ福島原子力発電所の放射能漏れ問題は終息しておりません。かつて経験したことのない非常事態に対して、危険と恐怖と戦いながら対応していただいている自衛隊、消防、電力会社や関連の皆様が無事と事態の解決を心から願っています。

私は2年前から、中央区東支部の財務の仕事をさせていただいており、そのご縁で今回の原稿を依頼いただきました。平成23年3月1日現在の当支部の会員数は、517名（昨年同月より6名減）です。札幌市医師会の総会員数は3,704名ですので、人数的には約14%にあたり、札幌市医師会の11支部の中では最大の会員数です。内訳は、A-1会員（個人の病院、診療所の管理者）が68名、A-2会員（法人の病院、診療所の管理者）が95名、B-1会員（国公立病院などのA-1、A-2以外の管理者）が9名、B-2会員（勤務医会員および休診）が345名です。とくに、A-1およびB-2会員が多いのが特徴です。これは、支部の範囲に市街中心部の密集したビル開業の会員が多いことと、比較的規模の大きな総合病院が多いことが理由と思われる。

医師会活動は、どうしても診療が終わってからの夜間の時間帯が主になります。市の中心部では、仕事帰りのお勤めの方のために遅くまで診療しておられる開業の先生も多く、また、総合病院の諸先生におかれましても医師不足による激務が続いている状態と伺っています。このような事情で会員数が多い割には、医師会活動に参加していただける先生は多くありません。

当支部では、支部会員の皆様が医師会活動に参加していただくきっかけになればと考え、一昨年からは毎年11月に若手会員（年齢ではなく、入会后年数が少ない会員）を対象に懇談会を開いております。毎年、たくさんの会員の先生にご出席をいただき、会では活発な議論もあり成功裏に開催させていただいております。また、今年は、初めて支部のボーリング大会が開催されました。会員のみならず、会員のご家族、そして各医療機関のスタッフの皆様の多数の参加を得て盛会でありました。普段はなかなかお

会いすることがないので、この機会に顔の見えるお付き合いができてよかったなどのご意見を頂戴しました。賞品も好評であり、ぜひ来年も開いて欲しいとの声もたくさん聞かれました。

ところで、私は今年4月から第5班の班長をさせていただくことになりました。当班は、札幌市医師会の中では歴史が古く、昔はたくさんの先生が所属されていたと伺っています。かつては診療の終了後、頻りに班で集まって酒席で意見交換したり、診療報酬の情報も班で回覧されていた様子です。戦時中には、少ない物資も班でやりくりしていたと伺っております。現在は当時に比べ、会員個人個人の時間が少ない時代であり、班活動も制約があり、加えて当班は会員の人数が少なく、なかなか班会議も開けない状態です。その分、支部のさまざまな行事を利用させていただき、相互理解と親睦を深めさせていただけたらと思います。

民主党政権交替のとき、「国民の生活が第一」とのマニフェストに期待したのは私だけではなかったと思います。現状をみますと、医療崩壊をもたらした無慈悲な小泉構造改革を継承しているような感があり非常に残念です。また、さらに医療ツーリズムの推進、混合診療解禁やTPP（環太平洋戦略的経済パートナーシップ協定）への参加表明など、本当に国民のための政策を推進しようとしているのか甚だ疑問です。今後、ますます厳しさを増すと思われる医療環境にあり、医師会員のみならず、すべての医療従事者、患者さん、そしてそのご家族の方々のために医師会として団結し、政治に声を届かせていただけたらと考えます。

